

第1回 小田川合流点付替え事業

環境影響評価フォローアップ委員会 議事要旨

開催日時：平成30年3月27日（火）10：00～12：00

場 所：国土交通省 中国地方整備局 岡山河川事務所 2F大会議室

出席委員：7名中 7名出席

議事要旨：

1. 委員会規約、公開規定について

異議なし

2. 委員長選出、副委員長の指名について

事務局：委員長を河原委員にお願いしたい。

異議なし

委員：副委員長を西垣委員にお願いしたい。

異議なし

3. 平成29年度環境モニタリング調査報告について

委員：外来種は「拡散防止」と位置付けているが、駆除は含まれないのか。

事務局：貯水池の水位を下げる際に、出口にネットを設置して捕獲した外来種は駆除を行う予定である。

委員：工事後も恒久的な外来種の駆除対策ができないか検討をお願いする。

委員：二枚貝の定量調査で、在来タナゴ類が多い個所では二枚貝も多いという重要なデータが収集できたと考えられる。二枚貝は移動能力が低く、水枯れの影響を受けやすいと考えられるので、今後の事業に伴う水位低下について予測しているか。

事務局：今後、事業にともなう水位への影響について把握する。

委員：冷凍保存した種子で再生できるのはよいことだが、より低コストとなる常温保存でも芽が出るか検討をお願いする。

委員：切土工事によるオオタカへの影響はないのか。

事務局：切土工事は尾根を挟んで反対側のため、影響はないと考えている。

委員：特定外来生物と拡散防止対象種の違いは何か。

事務局：過去の委員会において、各種の移動能力等を加味して検討している。

委員：外来種の実態を把握し、積極的に情報を発信していく必要があると考える。

4. 環境モニタリング計画（工事着工）について

委員：モニタリングに合わせた工事計画を示してほしい。

委員：サギ類のねぐらの保全では、サギ類は移動能力が高いため、調査範囲外への追跡について検討をお願いする。

委員：在来タナゴ類の調査時期は灌漑期であり、水の供給が豊富な時期である。非灌漑期には水位が低下する可能性が高まるため、環境巡視等における水位の確認を検討して欲しい。

第1回 小田川合流点付替え事業

環境影響評価フォローアップ委員会 議事要旨

委員：アサザの移植では、アメリカザリガニの影響も考えられ、侵入防止策や駆除した上での移植が効果的と考えられる。

事務局：すべて駆除することは難しいと考えられるが、効果的な手法について検討する。

委員：水質のモニタリング地点である新合流点下流では、高梁川の水と小田川の水が混じるような場所で採水するように注意が必要である。

委員：ビオトープや代償措置で造成した自然環境は、機能するまでに時間が掛かるため、できるだけ早い時期の造成が望ましい。

事務局：柳井原貯水池の川づくりは「小田川柳井原川づくり検討協議会」で現在検討している。クリークに水が流れるのは事業の後半となる予定。

5. 小田川柳井原地区川づくり検討協議会について

質疑なし

6. その他

委員：外来種の駆除に関して本委員会の内容に含める方がよい。

事務局：検討する。

事務局：「小田川柳井原地区川づくり検討協議会」を専門部会としたい。

異議なし